

ぐるみ参加型集落営農における 合理的な管理運営方策

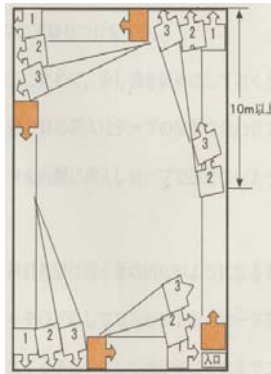
水田経営所得安定対策の開始に伴い、安定兼業地域等を中心に、ぐるみ参加型の集落営農が数多く設立されています。そこでは、組織の発展に向けた適切な管理運営を行い、経営体に移行することが今後の課題となっています。そこで、農作業に不慣れな構成員が存在することの多い、ぐるみ参加型集落営農における管理運営方策のポイントについて提示しました。

☆ 技術の概要

1. 作業管理では、年間数日しか農作業に出役しない作業者の存在を前提に、①実施すべき基本事項、②判りやすい表現を用いた作業ノウハウ、③作業や操作を行う理由や手順の図示等を盛り込んだ作業マニュアル（図）を作成し、作業機毎に表示することが大切です。
2. 品質管理では、作業者が十分な知識を持たない場合があることから、カード等を用いて、圃場単位毎の労働時間、機械稼働時間、資材投入量等のデータを収集したり、収量・品質についても圃場単位で把握し、圃場毎に最適な投入量等を決定することが大切です（表）。
3. 労務管理では、オペレータの技能に応じた職能別の出役体制を取りつつ、作業の監督・指示を徹底すると共に、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）の仕組みを取り入れた人材育成のプロセスを構築することが重要です。
4. 経営管理能力の継承方策として、旧役員が退任後も一定期間新役員を補佐する併走期間を設け人材育成を図ります。また、経営管理上の問題が発生したその都度、解決方法を規約・細則に追記し、それを経営管理マニュアル的に利用することが効果的です。

コンバイン刈取作業手順書（抜粋）

1. ほ場での刈取は運転席を畦半寄りにて正常運転とする。（左まわり）
* 刈残しや稲の状況により逆まわり運転をする場合もある。
3. ほ場の隅刈は図の要領で、最初に刈取した後に最低でも10m以上バックして角刈をする。
2回目のスタートは1株掛ける程度の左ハンドルで到達時6株を目視して直進で行なう。
3回目も同じ要領で行ない刈取運転時はハンドルを切らないこと。
* ほ場が軟らかい程バックの距離を大きくとること。
5. 隅刈時に刈残しが出来た時は、ほ場を3周程刈取った時点で逆まわりして刈取、同時に隅の手刈稲を脱穀する。
6. 刈取高さは出来るだけ低くするも、ほ場の管理機タイヤ跡、盛土や障害物には高刈調整を行い、機械トラブル防止に注意する。



作業内容： 田植(キヌヒカリ) 平成19年5月21日

圃場番号	面積 (a)	準備品(品名別)・数量					
		苗(箱)		肥料A (40kg/10a)		薬剤B (1kg/10a)	
		計画(箱)	実績(箱)	計画(kg)	実績(kg)	計画(kg)	実績(kg)
39	41.6	83	80	167	160	4.2	4
40	40.5	81	80	162	160	4.1	4
42	29.8	60	60	119	110	3.0	3
	111.9	224	220	448	430	11.3	11

表 資材投入記入カードの実例

図 農作業マニュアルの実例

☆ 活用面での留意点

1. 総兼業地域において構成員の出役日数が限られた集落営農を前提にしている。
2. 詳細については、中央農業総合研究センター農業経営研究チーム（TEL：029-838-8423、Eメール：akihiro@affrc.go.jp）にお問い合わせ下さい。

（中央農業総合研究センター 主任研究員 高橋明広）